5. 国旗由来から国名当てクイズ

国旗の由来を読んで、その国の名前を答えの欄に書きましょう。

アジア

1918年から1920年までの国旗を修正して現在の国旗の形になった。上の青色はトルコ民族を表し、下の緑はイスラム信仰を表す。中央の赤は近代化への貢献を表現していて、月のわきの八角星はこの国に住む3つの民族に由来している。

この国のたくさんの政変や国旗に影響されて、国旗は20世紀の間に16回も変更されている。一番新しい国旗は、アフガニスタン王国の時代のデザインをもとに、紋章の大きさや細かな部分を補正し、新憲法が施行されたのを機に戻された。

連邦の7つの国のうち、ブジャイラ以外は赤白白の国の旗である。連邦大統領旗は、中央の白色の部分に、胸に国旗と7つの星をつけたタカの国章がデザインされている。

1918年から1921年まで使用された旗の比率が変わったのが現在の国旗。赤色は共和国のために流れていった人たちの血を表し、青色は永遠の国土を表現。オレンジは独立と勇気を表現してデザインされている。

南イエメンと北イエメンの統合時にできた旗である。赤色は自由と南北の統一のために流された血を表し、白は輝ける未来を表現。黒は、以前の暗黒の時代をイメージしてデザインされている。

19世紀末のエガヤ建国運動時に使用されたものがモチーフ。白と青は礼拝のときに使うヨーロッパの色に由来し、真ん中には「ダビデの盾」が配置されている。ダビデの盾は、ユダヤ人が昔からお守りとして大切にしてきたものである。

横に3色配置された旗の赤は勇気を、白は寛容を、黒はイスラム教の伝統と栄光を表している。国旗の真ん中には、イスラム教を表す緑色のアラビア書道タイプの伝統と栄光を表している。「アラーの神は偉大なり」と書き加えられている。

横3色緑・白・赤で構成され、白の両端には「アラー・アクバル（アラーの神は偉大なり）」とアラビア文字で11回、計22回書かれている。中央の4つの三日月と剣では、イスラム教徒の五行を表現したものである。

サフラン色は、自己犠牲の精神と勇気を表し、緑は緑春教源と信仰、白は平和と真実を表している。しかし、本来はサフラン色と緑はそれぞれエンドゥー教徒とイスラム教徒に由来している。

13世紀にできたマジャパヒト王国が赤と白の2色の国旗を使ったのが発祥。1928年インドネシア国民党がシャツで最初に掲揚した。配色はモナコ国旗と同じであるが、インドネシア国旗は縦横比が2：3となっている。

ヨーロッパ

同じデザインで青と赤を取り替えるとノルウェーの国旗になる。白と青は民族衣装と長年国民に親しまれてきた色で、1897年に非公式に取り入れられた旗も、青地に白の横長の十字が描かれている。

以前のアイルランドの旗は、緑地に黄色のハープ竪琴の部分式のものだった。九角形のシンボルはトリックを、右端のオレンジ色はプロテスタントを表し、中央の白は両教徒が融和することを表現している。

双頭のワシは、15世紀に民族の英雄であるカンデルベイが掲げた旗から受け継いだものの。アルバニア人は、ワシの子孫という伝説に由来する。社会主義政権がくずれ、以前はあった星のデザインがなくなった。

紋章と色のデザインが、フランススペインの国旗の影響を受けている。1866年に国旗が掲げられてから、さまざまな紋章の変遷を経て、1996年に現在の形に落ち着いた。

イングランドの白地に赤十字、スコットランドの青地に斜め赤十字を組み合わせ、アイルランドの白地に斜め赤十字を足して連合王国を表現している。

緑・白・赤の3色は、ナポレオンがイッセナルビーチ共和国国旗からヒントを得て、1798年に作られた。ラテン語で「神と自由と法」という意味。黒は国旗の中央に描かれた国旗として復活した。青色は空と自由を、黒は祖国の大地を、白は自由への思いと明るい未来のシンボルとなっている。

1884年にエストニア学生会によって制定され、7連邦から再独立した際に主権国として復活した。青色は空と自由を、黒は祖国の大地を、白は自由への思いと明るい未来のシンボルとなっている。

上段から赤・白・赤で構成されていて、十字軍が遠征した時代に、オーストリア辺境伯の白衣が戦の返り血でベルトの部分を除いて赤く染まった故事に由来。現在用の国旗には、黒いワシの紋章が描かれる。

16世紀後半のスペイン戦争時代に、オレンジ公にちなんだ緑からオレンジ・白・青の旗を使っていたのがもとになっている。その後、オレンジ色を赤色に変更したが、それは海で変色しやすいからといわれている。

上段の青は生命の源である水を表し、中段の白は平和を、下段の緑は実り豊かな自然を表す。間の赤い模様は、生命力を表現。新国は イスラム教国であることと国の独立のシンボルであり、12個の星は王道十二宮に由来している。

1970年までは、赤一色だけの国旗が採用されていた。赤は侵入者に対して闘う色を表し、緑は実り豊かな国土を表現。白は平和を象徴。国旗には紋章がとりあしらわれている。これは、オマーン古来の剣と短剣がシンボルを組み合わせた国章である。

青色は、カザフスタンの遊牧民が見ていた澄み きった空の色で、平和と幸福のシンボルである。真ん中に描かれた黄色のワシと太陽は、それぞれ自由と明るい希望を表現し、旗竿側のアラベスク文様はカザフ民族の伝統的な装飾をシンボルである。

独立してから何回も変更されているが、世界遺産のアンコールワット遺跡は、政権が変わってもいつも国旗のデザインに採用されていた。旧王国時代の国旗が復活したもので、1948年から1970年に使用されていたものと同じ。

旗の中央にキプロス島をかたどったデザインが描され、その下にオリーブの枝があしらわれている。国連旗の発想と似通っている。オリーブの枝は、トルコ系とギリシャ系の両国の平和と協力を表し、黄色は古来から特産品や銅などの豊富な地下資源を表現している。

赤地に、黄色でキルギスハンの伝統的な移動式住居「ユルト」の天井と太陽が描かれている。太陽が放っている40の光線は、この国の代表的な40部族を表している。キルギス民族を統一した英雄マナスの表現を使用したことに由来しているといわれている。

黒・緑・白・赤を配置したデザインで、この4つの配色はアラブ諸国で多く使用されるもの。赤は勇敢で献身的な精神の象徴。白は光と平和を表し、黒は砂漠と富を表現。黒、緑のピラミッドは、ペルシャ湾岸地域の象徴である。緑は森林、黒は鉱物資源を表現。

地色の緑は、イスラム教の聖なる色である。右から左にアラビア文字で「アッラーのほかに神はおわしない。マホメット（ムハマド）はアッラーの預言者である」と書かれている。剣は聖地のメッカを守護する意味合いを持っている。

12世紀から14世紀にかけて使われた中世グルジア国旗（サアカシヴィリ大統領が率いる与党の「国民運動」の党旗にもなっている）ももとにして作られた。中央の大きな赤十字の四隅に4つの小さな赤十字を描いていて、エルサレム十字と呼ばれている。

ローマ帝国が1240年にシュビーツ州旗として制定した旗がもとになっていて、1848年連邦憲の旗となる。陸上用の旗は正方形であるが、水上用の旗は正方形の2：3である。十字はキリスト教のシンボル。

構長の十字架はスカンディナヴィアンクロスとその呼び名があり、北欧諸国に共通して使用される。青と黄色は国章の色に由来していて、青は湖を表し、黄色は金色に輝く太陽を表現。毎年6月6日は国旗の日として祝祭を行う。

「色と金の旗」と呼ばれ、赤と黄色は13世紀当時の4つの王国の王朝に使用されていた色にちなんでいる。1785年以降はスペインのシンボルカラーとなっている。フランス時代はフランのマーク的入っていた。現在の紋章はイベリア半島の5つの王国の紋章とハラクレスの柱をデザインしたもの。

「トン・トライロング」（三色旗）を採用している。1916年王国は赤色に白色をデザインした国旗だったが、国内紛争が起こっていた国王がたまたま王道に規律されていた国旗を見て、上下左右を反対にしても同じに見える国旗に変えたという逸話が残っている。

赤と青のともえ状の中央に描かれている。ともえは韓民族に昔から親しまれてきたデザインで、旗の図柄は陰陽五行説に由来している。国旗の原案は、朝鮮王朝の末期の国王である高宗によるもの。

真ん中の紋章は交差する階級の人々の統一を表現。赤は主権と労働者を表し、白は純花と知識人、緑は農産物と農民の象徴である。赤・白・緑の配色がインの国旗と同じなのは、タジキスタンの民族がイラン系であるから。

「五星紅旗」と呼ばれ、1949年に3000ほどのデザインの中からコンテストで優勝した普通赤のものを修正して国旗にした。中国革命と中国人民の一致団結のシンボルであり、階級や民族を表すという説は否定的である。

1898年に香港に亡命していた愛国者達さにより最初の旗が掲揚された。赤は独立戦争で流された血を表し、黒は植民地時代の暗黒と荒廃するインフラを表現。白は平和を表し、星の形は未来への希望のシンボルである。

上下の青いラインは平和への関心を表し、赤は人民の不屈の精神と社会主義であることを、星は朝鮮労働党の指導的役割を表現。白は古来からこの国の人たちが親しんできた色で、純潔と光明のシンボルである。

独立してから37つめの国旗にあたる。地色の緑はイスラム教を表し、新月は明るい未来を、5つの星は人の5感を表している。旗竿側に伝統言葉の補強構材が描かれ、各部分はトルメン人の主な5部族を表現。模様の下側にはオリーブの枝が配され、永世中立のシンボルとなっている。

アイ・イルディズ（月と星）と親しみを込めて呼ばれる新月旗。オスマン帝国の初代皇帝の孫にあたるオスマン・ガーズィーが考案コンスタンチノープルを征服することを予言したという逸話が残っている。

アメリカ

左上の旗竿の位置には、州の数と同じ50の星が散りばめられている。旗面は独立した13州に由来する赤と白のストライプで構成されている。一番はじめにできた星条旗から26回も変更を重ねた。

真ん中に描かれている「5月の太陽」は、対スペイン戦争時の日本の国旗に由来していて、共和国の誕生を表している。金色の月の太陽は、大統領旗にもデザインされている。

自治政府を立ちとげたときの国旗コンテストで優勝した旗を使用している。国旗の長さと幅の比率は2：3。赤は勇敢さを表し、白は純潔を表している。赤は、未来へ向かっていく国民の活力をイメージしてデザインされている。

青と白のストライプの部分の青色は自由を、白は平和を表している。カ字の部分は、国内紛争を象徴していた。

黄・青・赤の3色で構成され、以前コロンビアとベネズエラとともに構成していたグランコロンビアの国旗にちなんでいる。各治体の建築物に掲揚する国旗に州と同数の星が描かれるのは、エクアドル独自の習慣である。

19世紀末のスペイン戦争時に使用されたものをもとにしている。赤色は自由と南北統一のために流された血を表し、白は輝ける未来を表現。黒は、以前の暗黒の時代をイメージしてデザインされている。

1952年のラオス愛国戦線の旗がもとになったデザイン。赤は独立闘争で流された尊い血を表し、青は国の豊かさを、中央の白丸はメコン川にのぼった満月と共産主義で国家統一することを表現している。

真ん中に描かれたこの国のシンボルである3つの三日月は、白は雪山と純潔を表し、赤は勇気と誠実を表現している。国旗の原案は、赤は国民の勇気を、白は平和と平等を表現。太陽は自由を表し、8条の光はスペインに最初に抵抗した州を、3つの星はルソン島・ミンダナオ島・ビサヤ島の象徴。

「Flag Debate」と呼ばれる国旗選定をめぐる100年もの大論争の末に制定された。赤と白はカナダの国色で、真ん中のメプルリーフは1800年のイギリス皇太子訪問の際からカナダのシンボルとされている。

1850年、キューバの独立運動でナルシソ・ロペスが掲揚した星旗が独立の象徴となった。3本の青い線は独立したときの州を表し、赤の白線は独立運動に参加した者の強固な意志を表現している。赤は勇敢で流された血で、三角形は自由と平等と博愛の精神を表している。

「黄金の矢尻（金鏃旗）」と呼ばれ、旗竿側に星が描かれている。ヨーロッパ人が来る前の先住民族の信仰、白は平和と真実を表している。しかし、本来はサフラン色と緑はそれぞれヒンドゥー教徒とイスラム教徒に由来している。

中央アメリカ連邦の旗の色にちなんだ国旗で、両端の青は太平洋とカリブ海を表し、中央の白は平和と友情を表現している。政府用の国旗には、1997年に変更された国旗がデザインされている。故意に掲げた国旗のケースは自由の象徴。

ヨーロッパ

もともとは、青に白十字の旗を、独立戦争の際のトルコの赤い新月旗に対抗するような形で掲揚されていた。9本の横線は、独立戦争時代の「Ἐλευθερία ἢ Θάνατος」（自由か死か）の9音節に由来する。

赤・白・青は、スラブ地域で頻繁に使用される色である。海上で使用される国旗の比率は2：3である。真ん中に配置された国章は、古クロアチアの3地域を表現する紋章と、民族の模様であるチェック柄のデザインされている。

白と青はフランス革命の海から使用されている。青は空とアドリア海を表し、白はチェーム人の国土を表している。良府用の国旗には、3つの縦と横、王冠などがデザインされた紋章がついている。紋章の下には「自由（LIBERTAS）」と書かれている。

ローマ帝国が1240年にシュビーツ州旗として制定した旗がもとになっていて、1848年連邦憲の旗となる。陸上用の旗は正方形であるが、水上用の旗は正方形の2：3である。十字はキリスト教のシンボル。

「白と金の旗」と呼ばれ、赤と黄色は13世紀当時の4つの王国の王朝に使用されていた色にちなんでいる。1785年以降はスペインのシンボルカラーとなっている。フランス時代はフランのマーク的入っていた。現在の紋章はイベリア半島の5つの王国の紋章とハラクレスの柱をデザインしたもの。

白・青・赤の汽スラブ色の3色旗だった。チェコにおかれたときに、ロシア連邦の国旗と見分けがつくように国章をつけた。紋章には、キリスト教を表現するブルクロスと羊の山がデザインされている。

1930年に作られたセルビア公国の国旗がもとになっている。赤・青・白はスラブ民族独立の象徴となる色である。中央からやや左寄っている1993年までのチェコ共和国の国旗は紅白の横2分割の旗だった。

旧チェコ・スロヴァキア連邦共和国の旗を、スロバキアが独立した後もそのまま使っている。連邦共和国当時、1990年から1993年までのチェコ共和国の国旗は紅白の横2分割の旗だった。

1932年に自治国家となってから国旗を6回変更している。はじんどが赤・緑・黄のスアラブ色を使用していて、現在の国旗は19回から1961年までのアラブ連合国のときの国旗が復活したもの。赤は国を守る剣を表し、白は国の豊度を、黒は法典の厳静を、緑の星は美しい大地と国国の統一を表現。

根民地だった1959年に廃棄されたが、マレーシア連邦の一州時代には州旗としても重用されていた。現在の国旗は19回から1961年までのアラブ連合国のときの国旗が復活したもの。赤は国を守る剣を表し、白は国の豊度を、緑は国の美しい大地と国国の統一を表現。

独立した3年後に、イスラム教徒を表す緑と、ヒンズー教徒を表すオレンジ（サフラン色）のラインが採用された。剣をもつライオンは、この国のシンハラ人の伝説に出てくる動物である。四隅の国は菩提樹で、スリランカの約70％を占める仏教徒を表現している。

かつての国旗はジグザグ模様が8個だったり直線だったが、パルーン・ラ王国に国名を変更した際に国旗と元首旗のデザインを変えた。赤色はペルシャ湾岸諸国に昔から親しまれてきた色である。

「トン・トライロング」（三色旗）を採用している。1916年王国は赤白白色をデザインした国旗だったが、国内紛争が起こっていた国王がたまたま王道に規律されていた国旗を見て、上下左右を反対にしても同じに見える国旗に変えたという逸話が残っている。

赤と青のともえ状の中央に描かれている。ともえは韓民族に昔から親しまれてきたデザインで、旗の図柄は陰陽五行説に由来している。国旗の原案は、朝鮮王朝の末期の国王である高宗によるもの。

真ん中の紋章は交差する階級の人々の統一を表現。赤は主権と労働者を表し、白は純花と知識人、緑は農産物と農民の象徴である。赤・白・緑の配色がインの国旗と同じなのは、タジキスタンの民族がイラン系であるから。

「五星紅旗」と呼ばれ、1949年に3000ほどのデザインの中からコンテストで優勝した普通赤のものを修正して国旗にした。中国革命と中国人民の一致団結のシンボルであり、階級や民族を表すという説は否定的である。

上下の青いラインは平和への関心を表し、赤は人民の不屈の精神と社会主義であることを、星は朝鮮労働党の指導的役割を表現。白は古来からこの国の人たちが親しんできた色で、純潔と光明のシンボルである。

独立してから37つめの国旗にあたる。地色の緑はイスラム教を表し、新月は明るい未来を、5つの星は人の5感を表している。旗竿側に伝統言葉の補強構材が描かれ、各部分はトルメン人の主な5部族を表現。模様の下側にはオリーブの枝が配され、永世中立のシンボルとなっている。

アイ・イルディズ（月と星）と親しみを込めて呼ばれる新月旗。オスマン帝国の初代皇帝の孫にあたるオスマン・ガーズィーが考案コンスタンチノープルを征服することを予言したという逸話が残っている。

オセアニア

旗竿の部分にユニオンジャックが配置され、旗面には連邦の星であるも棘星と南十字星が描かれている。1952年までは、民衆は青地の旗を使用できずに赤字の国旗を掲げていた。

イギリス植民地のボルバート・ケーエリス諸島だった頃の紋章をちょっと手直しして旗にした。このような旗を紋旗旗と呼んでいる。黄色で描かれた星鳳凰は、極城と自由を表し、青と白の波形模様は南太平洋の海洋国であることを表現している。

植民地化される以前のサモアは紅白の国旗だったが、1948年に青と赤の旗が復活し、さらに翌年に星を1つつけ加えてできたもの。上段に描かれている南十字星は、この国が南半球に位置していることを示している。

5つの星は、この国を構成する主要な島々を表現するとともに、南十字星の象徴ともなっている。青色は南太平洋と川の豊かな水を表し、黄色の斜めラインは海岸を、緑は自然と豊かな国土を表現。市民用・政府用・軍隊用船舶旗は、各々赤・青・白地に赤十字をデザインしたもの。

独立時から1995年まで使用された国旗が復活して採用された。9つの星は、この国を構成する9つの島を表している。左上のユニオンジャックは英連邦に属していた証として、政府用の国旗にはユニオンジャックの下に国旗がつけられる。

国王が1862年の国会で「国旗には キリストの十字を記した白十字架が上で流された血を表現する赤を希望する」と述べたことに由来する。1875年の憲法で国旗のデザインを変えることを禁止したので、その後イギリスの支配を受けて独立しても国旗はずっと変わらなかった。

中央の黄色の横線は赤道を表し、ナウルの地理は赤道のすぐ南の日付変更線の西にあるので、中心をやれた場所にナウルを表す白星が配置されている。星の12本の光はこの国の12の原住民族を指す。

青地で左上にユニオンジャックを配し、南十字星を表す4つの星が描いてある。植民地時代には、はかの英領諸国と同じようにイギリス国船舶旗のフライにバッジを配置した旗だった。1869年に現在の旗の図柄を採用。

横に黄色で字形が描かれ、太洋にあるパスアンの位置を示すインクしたものとなっている。黒は肥沃な国土とメラネシア人を表し、緑は農業を、赤は独立闘争で流された血を表現。左側の紋章はパスアンの星になるシンボルで、野鳥の孔雀とヤシである。

学生のスーザン・カリケの図案を採用。赤と黒で斜めに塗り分けられた旗で、2色は伝統芸術や民族衣装などに使用される国民に親しみのある色である。左下に南十字星が、右上には国角のアカカザリワケチュウ（極楽鳥）のシルエットがある。

アフリカ

1920年代に反フランス運動の指導者となったメサリ・ハジが作り、民族解放戦線の旗として掲げられた旗を、独立後に国旗にした。この地域では、新月と星は幸運の象徴といわれている。

アン ゴ ラ 開 放 人 民 運 動（MPLA）のときに使われた旗を、農民を表した農耕用オイ ナと、工場で働く人々を表した農耕をつけ加えてデザインした。星は、アンゴラ共和国がMPLAの指導下になっていることを示している。

もともとはウガンダ人民会議の党旗に由来したもので、黒・黄・赤の3色のストライプで構成されている。国旗の原案は、ムンギリ人の伝説に出てくる、黒はフプ人の先住民族を表し、赤は国の豊かさを表現している。国旗の原案は、ウガンダ人民会議の党旗を修正して作られた。

上段の赤は革命を、中央の白は輝かしい未来を、下段の黒は過去の暗黒時代を象徴している。青は、真ん中の紋章は太陽を表現している。国旗の原案は、ウガンダ人民会議の党旗を修正して作られた。

上段から緑・黄・赤の配色になっていて、古来からエチオピアで使用されてきたなじみ深い色。真ん中にはソロモンの印章が描かれた黄色のオリーブの枝紋旗が採用されている。

3色の三角形で構成されていて、緑色は農業を表し、赤は独立闘争で流された血を表し、黒は国の歴史を表している。紅白の帯は、国旗の原案を表している。

上段から赤・黄・緑の汽アフリカ色」。独立にあたってアフリカ連合の旗を採用した。

青は空と海を表し、白は平和、赤は国旗の原力を表している。紅白の帯は、国旗の原案を表している。

上段の緑は経済を支えている豊かな森林を表し、中段の黄色は豊かな鉱物資源を表現している。中段の赤は、国旗の原案を表している。

左から緑・赤・黄の汽アフリカ色で構成される。独立後同国の変更はない。上段から緑に赤は独立のために流された血を表し、青はインド洋を表し、緑は豊かな国土を表現している。黄色のラインは平和と正義のシンボルとなっている。

モーリタニアに限らず、国旗にはその国の文化や歴史、宗教が色濃く反映されている。地色の緑と、三日月と星はこの国のイスラム教国であることを意味する。黄色はサハラ砂漠の砂を表現。

赤旗は今の王朝が300年以上使用していて、20世紀の初めにソロモンの印章とイラクイラ鳥の緑色で描かれた故章を配した。市民用の海上国旗には、旗竿の上部に黄色の王冠がデザインされている。

アメリカ

日本の国旗に似ているが、パラオの国旗は夜空にのぼる満月。1000ほどの国家の中から選定されたもので、金色に輝く満月は この国の運命と平和を表し、青は海や主権と独立を表現している。

根民地時代の色調と紋章のデザインを修正して使用。国章のライオンと赤いセント・ジョージの十字はイギリスを表しています。パナナ・サトウキビ・ヤシなどはフィジー諸島を表現する。英連邦から は棘旗だが、ユニオンジャックが配されている。

左下から右上に向かって太くなるオレンジ色のラインは、この国が発展する姿を表現している。地色の青は太平洋を表し、オレンジは勇気と富を、白は平和と光の輝きを表現。24の光を放つ太陽は自治体の数を表し、4本の長い光線は十字架を意味する。

1962年に作られた旗にはもっの行政区を象徴する星が配されていたが、マリアナとパラオが分離により星4つとなった。もとは国連信託統治領だったことにちなんで国連旗の青色を採用した。同時に青は太平洋も表現している。

オセアニア

日本の国旗に似ているが、パラオの国旗は夜空にのぼる満月。1000ほどの国家の中から選定されたもので、金色に輝く満月は この国の運命と平和を表し、青は海や主権と独立を表現している。

根民地時代の色調と紋章のデザインを修正して使用。国章のライオンと赤いセント・ジョージの十字はイギリスを表しています。パナナ・サトウキビ・ヤシなどはフィジー諸島を表現する。英連邦から は棘旗だが、ユニオンジャックが配されている。

左下から右上に向かって太くなるオレンジ色のラインは、この国が発展する姿を表現している。地色の青は太平洋を表し、オレンジは勇気と富を、白は平和と光の輝きを表現。24の光を放つ太陽は自治体の数を表し、4本の長い光線は十字架を意味する。

1962年に作られた旗にはもっの行政区を象徴する星が配されていたが、マリアナとパラオが分離により星4つとなった。もとは国連信託統治領だったことにちなんで国連旗の青色を採用した。同時に青は太平洋も表現している。

地図・路線図職工所